

ゴム構造からみた加工技術の今後と方向性

主催：一般社団法人日本ゴム協会 研究部会 成形加工技術研究分科会

協賛：日本化学会，高分子学会，自動車技術会，日本塑性加工学会，石油学会，繊維学会，

(予定) 日本機械学会，日本合成樹脂技術協会，日本材料学会，日本接着学会，日本複合材料学会，

プラスチック成形加工学会，マテリアルライフ学会，日本トライボロジー学会，日本レオロジー学会（順不同）

ゴム製品における最終的な物性は加硫時に成立する構造によって発現する。それは未加硫ゴムの特性にも依存しているが、今回のシンポジウムでは、この特性と最終的な加硫構造との関係性からその問題点を明らかにする。また、成形加工性において未加硫ゴム物性を安定化することは生産性向上と精度向上に対して重要であるが、今回はこのことを加硫から遡って多角的に議論する。

日時：2014年10月16日（木）午前9時50分～午後4時30分

場所：東京電業会館 地下ホール 東京都港区元赤坂1-7-8 TEL 03 (3403) 5181(代)

受講料：日本ゴム協会会員 協賛団体会員 23,760円 日本ゴム協会学生会員 5,400円

※受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも、ご所属の会社が法人としてゴム協会会員（賛助会員）の場合は2名様まで会員扱いの受講料で受け付けます

シニア制度対象者 11,880円（60歳以上の正会員）会員外 32,400円

受講料には消費税・テキスト代を含みます

申込方法：弊会ホームページ <http://www.srij.or.jp/> よりお申込みください。（定員80名）

送金方法：現金書留又は銀行振込（三井住友銀行 日比谷支店 普通No.7100847 一般社団法人日本ゴム協会）。振り込み手数料は受講者側でご負担ください。一度ご入金された受講料は返金いたしかねますので予めご了承ください。開催日が近づきましたら開催ご案内を発送いたします。

問合せ先：一般社団法人 日本ゴム協会 第204回ゴム技術シンポジウム係

(〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階)

FAX 03 (3401) 4143 TEL03 (3401) 2957 Eメール nakagawa@srij.or.jp)

演 題 (一部仮題目)	講 師・座 長
9:50~10:00 開会のあいさつ	成形加工技術研究分科会主査 石川 泰弘
	【座長】元・横浜ゴム(株) 石川 泰弘
10:00~11:00 散乱法によるゴムの階層構造の解析	京都大学 大学院 工学研究科 准教授 竹中 幹人氏
各種散乱法を用いて明らかにしたゴムの階層構造について概説する。	
11:10~12:10 ゴム成形加工における課題と今後 (金型内流動と加硫挙動)	西沢技術研究所 西澤 仁氏
ゴム成形加工の中の金型加硫における未加硫ゴムの流動挙動を中心として、併せて加硫挙動についても説明し、今後の研究の方向を探りたい。	
	【座長】東洋ゴム工業(株) 原田 誠
13:10~14:10 今後の未加硫ゴムの評価技術	(一財)化学物質評価研究機構 近藤 寛朗氏
ムーニー粘度計が国内に普及し60年以上たつが、今もなお現場の加工性評価試験機として利用されている。ここでは、ムーニー粘度計を用いた加工性評価と今後の未加硫ゴムの評価技術について述べる。	藤倉ゴム工業(株) 撰 隆文氏
14:20~15:20 ゴム加工へのシミュレーションの応用と評価技術	横浜ゴム(株) 佐藤 有二郎氏
加工過程における未加硫ゴムの挙動と内部構造変化についてシミュレーション、特性評価事例を交えて解説する。	
15:30~16:30 未加硫ゴムの加工性と加硫ゴムの内部構造の関係	元・横浜ゴム(株) 石川 泰弘氏
ゴム製品の成形加工性についてはその未加硫ゴム特性が製品の精度、生産性へ影響するが、最終的には製品の加硫構造に対し影響する。一般的には成形加工性は上流から下流へ、つまり混合、押出、圧延、加硫の順に議論されるが、今回は加硫に着目し、加硫の内部構造 (高次構造を含む) への未加硫物性の影響を議論する。	
16:30 閉会のあいさつ	成形加工技術研究分科会副主査 近藤 寛朗

※プログラムは一部変更になる可能性がございます。

☆お申込みは弊会ホームページ <http://www.srij.or.jp/> からお願いします。